

果樹生産における GAP の導入と認証システムの構築

1 中核機関・研究総括者

近畿大学生物理工学部 泉 秀実

2 研究期間

2005～2006 年度（2 年間）

3 研究目的

本年 4 月に、農林水産省 消費・安全局から「『食品安全のための GAP』の策定・普及マニュアル（初版）」が発表され、果樹ではリンゴに対する食品安全 GAP の策定事例が示されている。他種の果樹の GAP 策定・普及の積極的な推進を行うため、ウンシュウミカンおよびカキの GAP の策定と導入を試み、その導入によるリスク軽減の効果を把握するとともに、経済効果と経営管理への反映をシミュレーションする。

4 研究内容及び実施体制

① 果実類の微生物汚染原因の解明と制御技術の確立（近畿大学、(株)ビー・エム・エル）

ウンシュウミカン（防除暦の異なる 3 園地）およびカキ（1 園地）の栽培から収穫にかけての微生物汚染原因を解明し、未然に汚染を防ぐ制御技術を確立する。

② 果実類の残留農薬汚染状況の把握と制御技術の確立（JA 和歌山県農、(株)BML フード・サイエンス）

ウンシュウミカン（防除暦の異なる 3 園地）およびカキ（1 園地）の栽培から収穫までの農薬汚染状況を把握し、未然に汚染を防ぐ制御技術を確立する。

③ 果実類の GAP の策定と認証システムのシミュレーション

((株)BML フード・サイエンス、近畿大学、JA 和歌山県農)

ウンシュウミカンおよびカキの GAP 策定後、圃場で実施して、リスク低減効果と経済効果を把握し、さらに、認証システム化して公開するシミュレーションを実施する。

5 目標とする成果

日本で栽培される果樹の GAP 策定・普及マニュアルの充実化が図られ、生産者の収益性と消費者への情報開示を考慮した果樹 GAP の導入と普及が期待される。

【果樹生産におけるGAPの導入と認証システムの構築】

GAPとは？

GAP(適正農業規範)は、米国で考案された作物の栽培から出荷に至るまでの衛生管理法で、農林水産省 消費・安全局も「『食品安全のためのGAP』の策定・普及マニュアル(初版)」を発表(2005年4月)

目的



数種の果樹のGAP策定と導入
↓
リスク軽減効果・経済効果の評価
↓
実用化へのシミュレーション



研究内容

ウンシュウミカン(防除暦の異なる3園地)とカキ(1園地)の栽培中から収穫にかけての微生物汚染原因の解明と制御技術の確立

ウンシュウミカン(防除暦の異なる3園地)とカキ(1園地)の栽培から収穫にかけての残留農薬状況の把握と制御技術の確立

ウンシュウミカンおよびカキのGAP策定・実施と認証システムのシミュレーション

目標とする成果

数種の果樹GAPの策定・普及マニュアルの充実化と、生産者の収益性と消費者への情報開示を考慮した果樹GAPの導入と普及